

# 2025年3月期 第1四半期決算説明資料



「サンクチュアリコート琵琶湖 ベネチアンモダンリゾート」2024年10月開業予定  
※完成予想図

リゾートトラスト株式会社（証券コード4681）

## ① 第1四半期は増収増益、売上高・営業利益において過去最高を更新。

**2024年6月期：連結売上高 509億円、連結営業利益 40億円**

- ・好調な会員権事業が業績を強く牽引。価格改定効果や既存物件の販売増加などにより、利益率が上昇した。
- ・ホテル事業では稼働・単価ともに前年を上回り、計画通り順調な進捗。前年比では人財・営繕投資の計上時期の差異(1Q増/4Q減)などにより1Qは減益も、通期では増益計画。メディカル事業は1Qで約2割増益と引き続き好調。

## ② 会員権販売の契約高が第1四半期として3期連続で過去最高を更新。

**2024年6月期「契約高」281億円(ホテル・メディカル・ゴルフ合計)**

- ・ホテル会員権では257億円の契約高となり、サンクチュアリコートシリーズを中心に好調に推移。さらに、当期は既存物件の販売による契約高も大きく貢献し、過去最高であった前年同期を約2割上回った。
- ・メディカル会員権も21億円の契約高で、1Qとして過去最高の2021年6月期22億円に次ぐ高い実績となった。

## ③ 販売開始に向けた物件準備も順調に進捗、在庫水準は想定内の推移

- ・1Qに契約高が大きく増加している中でも、1Q末時点でのホテル会員権は270億円の契約高在庫を確保。在庫不足が販売のボトルネックになることがないまま、次の新規物件の販売開始に繋がられる見込み。
- ・新規発売物件の販売状況を確認しつつ、当期の通期見通しや来期の想定については改めて精査・検討を予定。

# 決算ハイライト（4-6月）

## 【第1四半期連結業績】

（百万円）

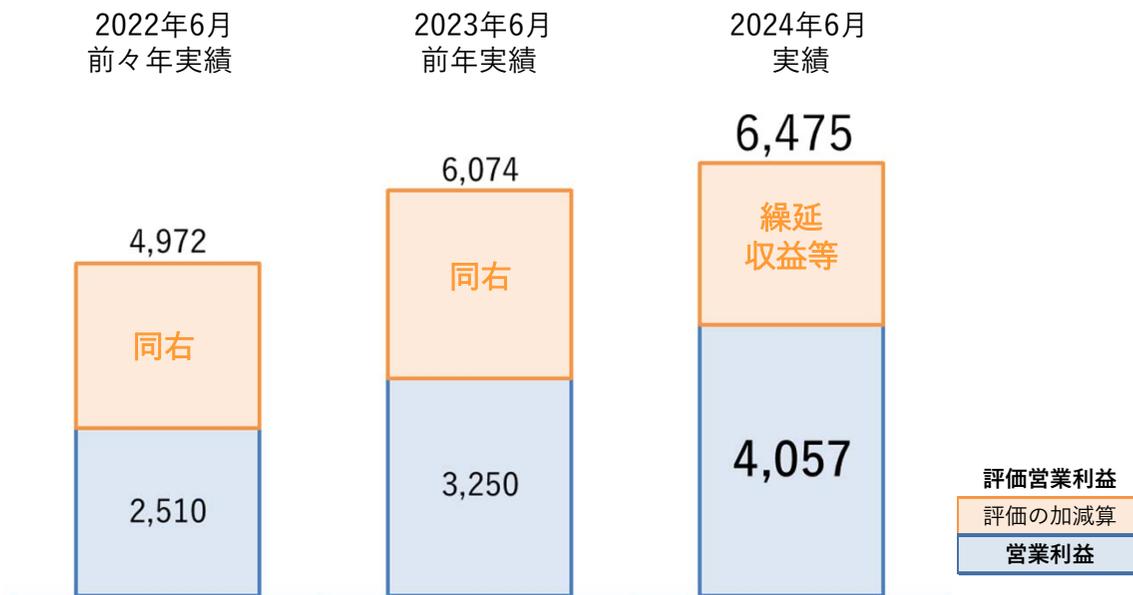
	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績	前年比
売上高	40,224	42,994	50,949	+18.5%
営業利益	2,510	3,250	<b>4,057</b>	+24.8%
経常利益	2,578	3,427	4,062	+18.5%
当期利益	7,426	3,042	2,421	△20.4%
評価売上高	49,148	52,179	58,826	+12.7%
評価営業利益	4,972	6,074	<b>6,475</b>	+6.6%

※当資料では、親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益を「当期利益」と表記しております。

- ・会員権販売を筆頭に各事業において好調な運営実績となり、売上高・営業利益は、計上／評価ベースともに増収増益となった。
- ・当期はサンクチュアリコート高山が開業済であり不動産収益を繰延べないため、計上ベースの伸び率は、より大きくなっている。
- ・当期利益の減益については前年（・前々年）特別損益によるプラス効果が大きく、過年度の水準が一時的に高くなったことに起因。

	2023.6期	2024.6期
特別利益	15億円	23億円
特別損失	-	18億円
特別損益計	15億円	5億円

## 【第1四半期累計 評価営業利益の過去3ヵ年推移】 ※青のグラフの数値は計上ベースの営業利益



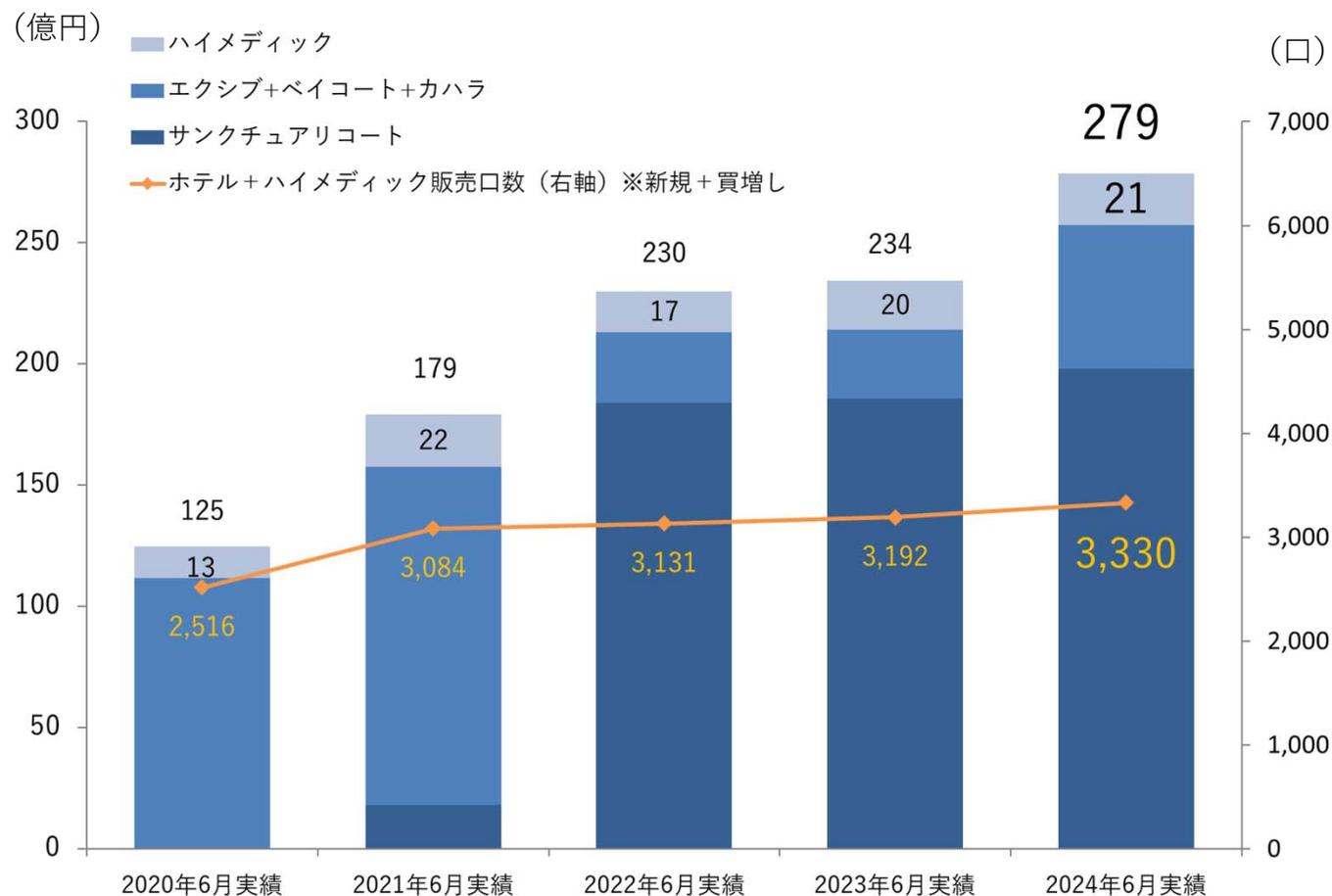
<評価売上高、評価営業利益とは>  
⇒会計上の特殊要素を実力値にした業績（営業評価ベース）

- ・未開業物件不動産収益の繰延べ（開業時までは計上されない）
- ・2021.4以降の収益認識基準変更（従来方法で評価）等

# 決算概況① 1Q契約高／販売口数

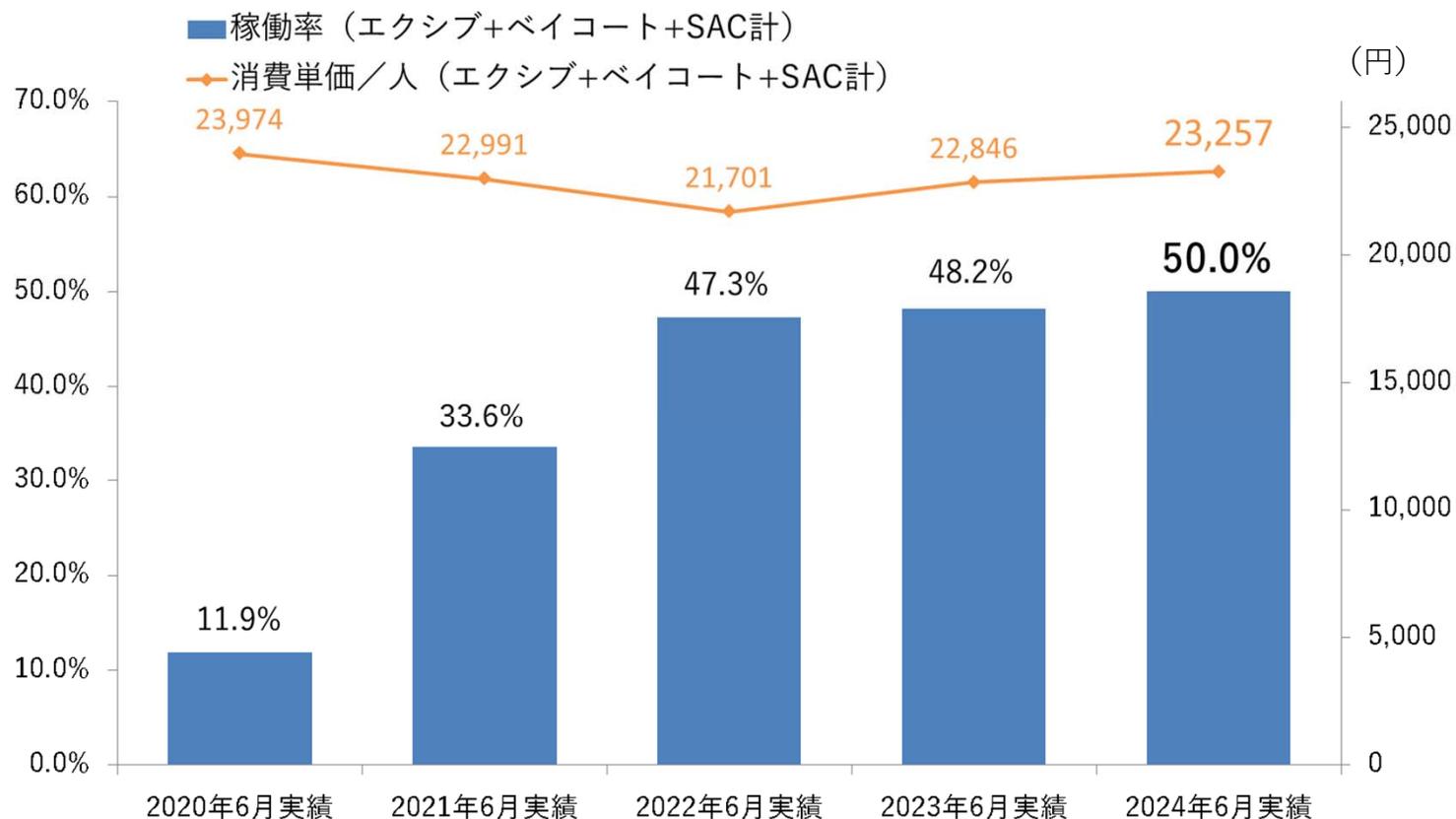
RESORTTRUST GROUP

## 【第1四半期 契約高／販売口数】（ホテル+メディカル）



- ・ホテル契約高は、サンクチュアリコートシリーズの販売が好調を継続し契約を伸ばしたほか、エクシブ、ベイコートの契約高が大きく伸びたことで、更にもう一段階高い水準まで伸長。
- ・口数も増加しているが比較的高単価の既存物件の販売が進んだことで、単価上昇の効果が大きい。  
※今回資料より当期の「販売口数」を掲載するよう変更しております（会員数の推移はP.32をご覧ください）

## 【第1四半期 稼働率・単価（施設売上／宿泊人数）】

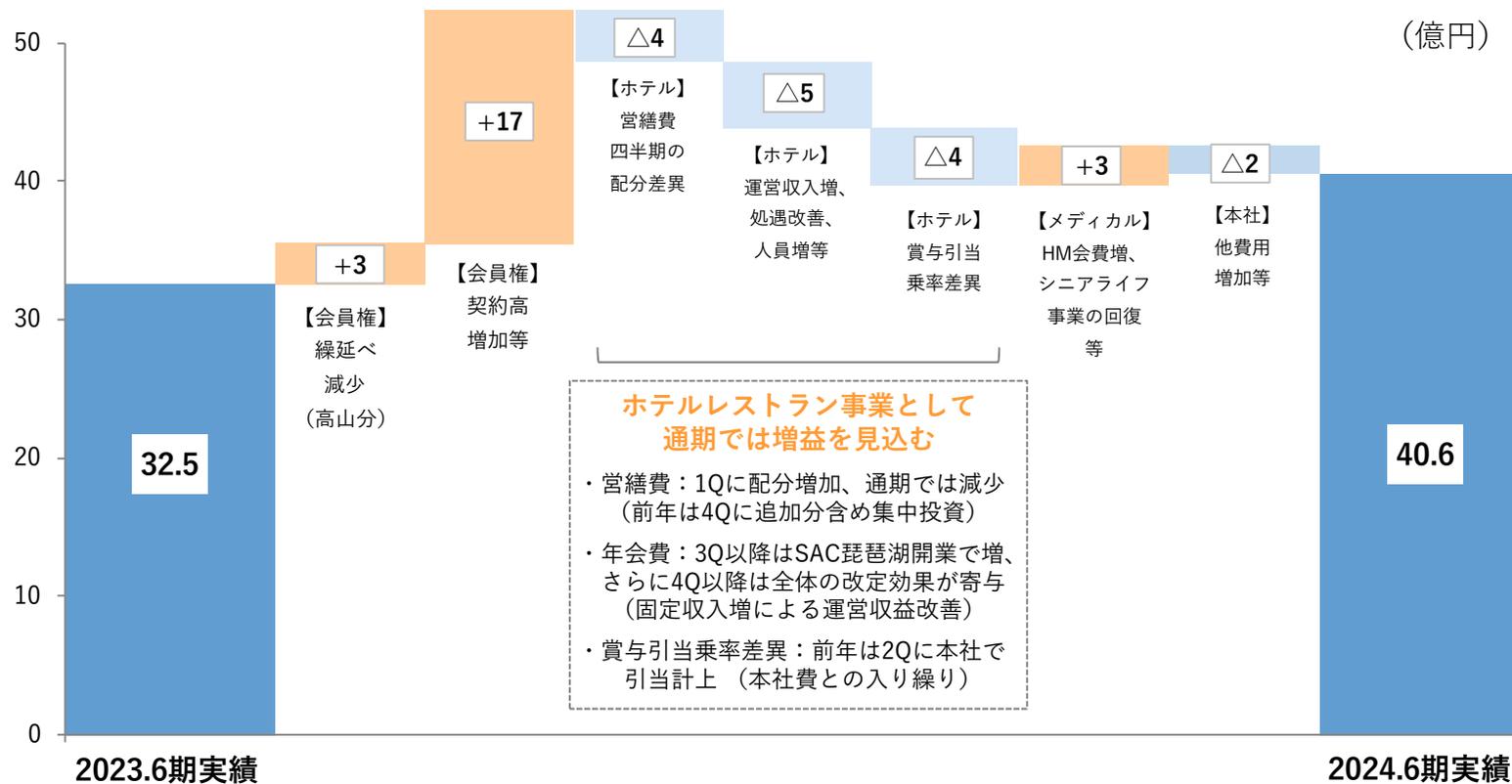


- ・ 会員制ホテルの稼働率はコロナ後にも上昇傾向を継続。当期1Qはサンクチュアリコート(SAC)高山が開業した効果も加わり、前年比で1.8ポイントの上昇となった（SACは当期からの算入）。
- ・ 単価も、2022年11月より実施した価格改定効果自体は一巡したものの、対前年で順調に上昇した。（2020年6月期及び2021年6月期は、コロナ禍における稼働低下に伴って単価が上昇していた傾向あり。）

※2023年6月実績の消費単価は、当期の計算方法に合わせて再計算しております。

# 決算概況③ 1Q営業利益の状況（前年対比）

## 【第1四半期 連結営業利益増減（対前期）】



会員権事業において契約高の大幅な増加及び価格改定効果などの影響がプラスに寄与し、全体では約25%の増益。ホテルレストラン事業では、当期1Qは人財投資強化や四半期配分の前傾を含む費用増が収益改善に先行するため減益に。下期以降、営繕費減少や年会費の改定効果等が増益寄与する計画。

## 収益力の向上・収益性の改善

※下線部は当期4-6月における変化・進捗

- ・ 会員権価格の見直し ⇒ 2023年6月及び2024年4月に実施（サンクチュアリコート、既存）
- ・ 新規着工施設の検討 ⇒ 東名阪の在庫状況を勘案し、進行年度に2ヵ所以上の着工を予定
- ・ WEB経由予約、スマートチェックイン／アウトの浸透 ⇒ WEB予約率上昇中、目標50%へ
- ・ ハイメディック新規施設（大阪／東京／横浜）を公表、中之島に続き東京も新価格で発売
- ・ シニアレジデンス新商品第一号の都心部の計画を公表、ホスピスケア導入施設の拡大
- ・ 海外倶楽部との施設相互利用の契約を締結、2024年1月よりサービスを開始
- ・ デジタル活用契約の推進（見込み客の増加）等、販売チャネルの充実と営業活動の効率化
- ・ LINE公式：お友達数の拡大（2023.3末：21.5万人 ⇒ 2024.6末：34.5万人へ増加）

## 人財・サステナビリティ

- ・ 処遇改善の実施 ⇒ ベア＋昇給、賞与乗率の引き上げ・安定化、中抜けの見直し、寮営繕実施
- ・ 社員持株会を通じた社員への自社株式の付与を実施 <ES/エンゲージメントスコア上昇>
- ・ 採用活動の充実 ⇒ リファラル採用、エリア採用、スポット採用、外国人採用等の加速
- ・ 太陽光発電を全拠点導入、「TNFD Adopter」に登録（ダボス会議にて「Early Adopter」として公表）
- ・ サステナビリティフォーラムの定期的な実施、地域やお客様と連携した活動の検討
- ・ 部門間クロストレーニングの始動・2024年6月 新任執行役員に女性2名、男性2名を選任

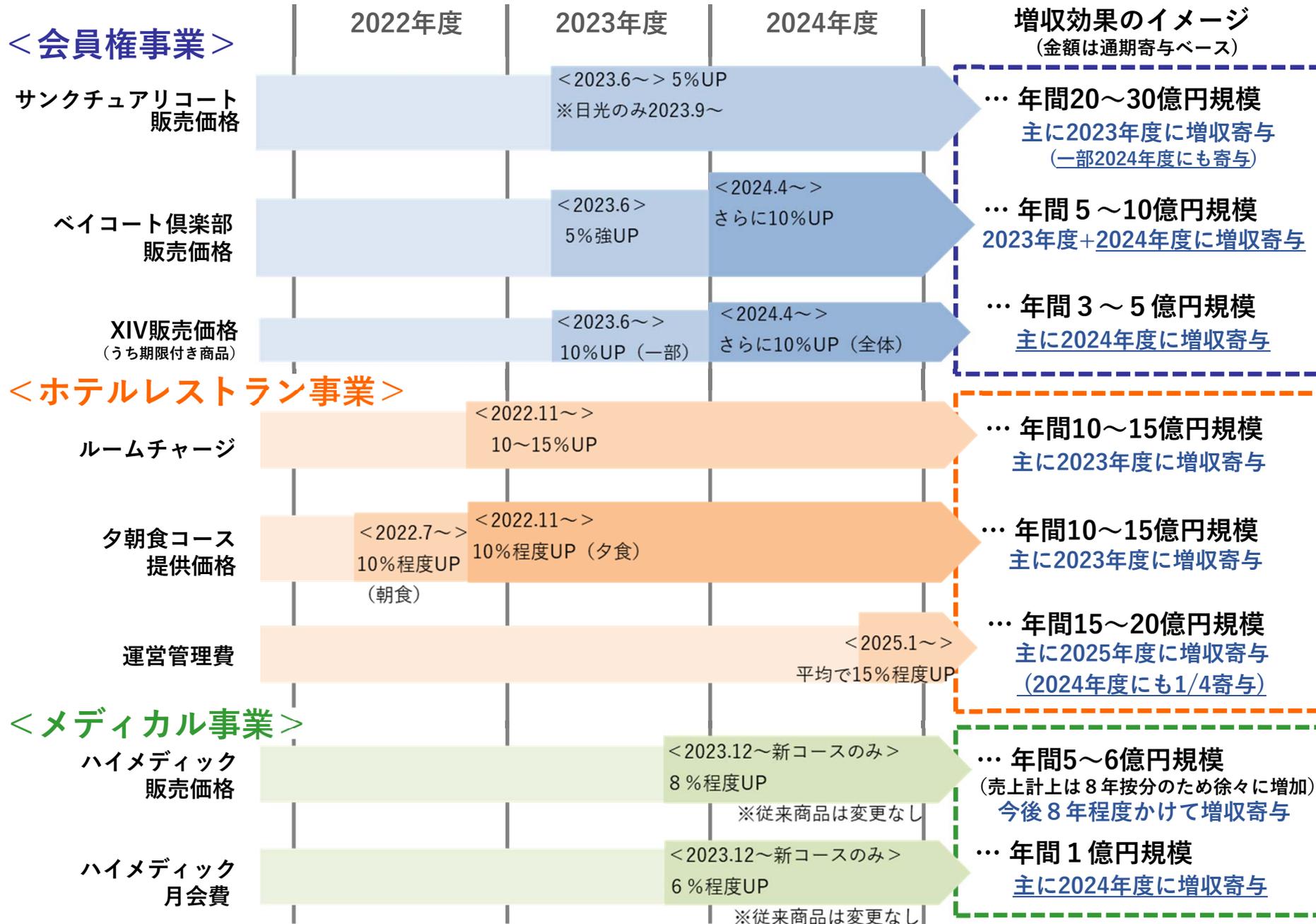
## 資本効率・ガバナンス

- ・ 取締役会のガバナンス体制強化・独立性向上に向け、2023年6月に社外取締役3名が就任
- ・ ROE12%の目標水準に向け、より資本効率を重視する経営へ ⇒ 2023年7月自社株買い30億円
- ・ MSCIの女性活躍指数に加え、2023年度よりESGセレクトリーダーズ指数に新たに選出

新中期経営計画「サステナブルコネクト」の推進

# 決算概況⑤主な商品・サービス価格改定の状況

RESORTTRUST GROUP



# セグメント別実績（4-6月） 主要3事業セグメント

RESORTTRUST GROUP

## 【第1四半期累計セグメント業績】

(百万円)

		2022年6月 前々年実績	2023年6月 前年実績	2024年6月 実績	前年比
会員権	売上高	9,112	9,232	14,182	+53.6%
	営業利益	2,967	2,399	4,388	+82.9%
ホテル レストラン	売上高	20,086	22,224	24,231	+9.0%
	営業利益	400	1,363	43	△96.8%
メディカル	売上高	10,846	11,362	12,360	+8.8%
	営業利益	1,446	1,523	1,811	+19.0%

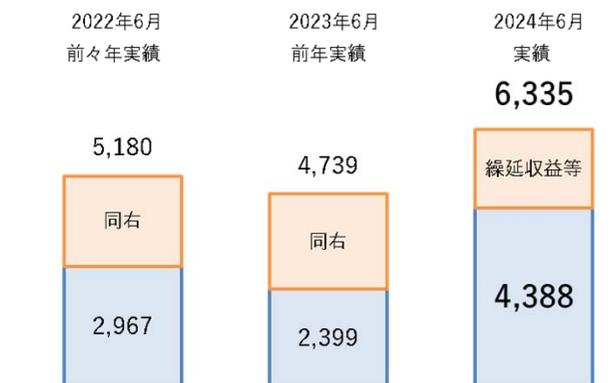
会員権	評価売上高	17,786	17,933	21,588	+20.4%
	評価営業利益	5,180	4,739	6,335	+33.7%
ホテル レストラン	評価売上高	20,086	22,224	24,231	+9.0%
	評価営業利益	778	1,363	43	△96.8%
メディカル	評価売上高	11,095	11,847	12,831	+8.3%
	評価営業利益	1,694	2,007	2,282	+13.7%

- ・会員権：新規発売までの販売在庫確保に向けた取り組みを実施。  
(過去数年間利用実績のない既存施設会員権へのアプローチなど)  
高単価商品中心に実施した結果、既存会員権販売が大きく増加。
- ・ホテルレストラン：前期末に開業した高山のほか、既存施設稼働、  
単価上昇で増収、コスト増(計上タイミング差異含む)により減益。
- ・メディカル：ハイメディック事業の成長(会員数増加による収益)、  
シニアライフ事業の効率性改善が継続したことなどから増益。

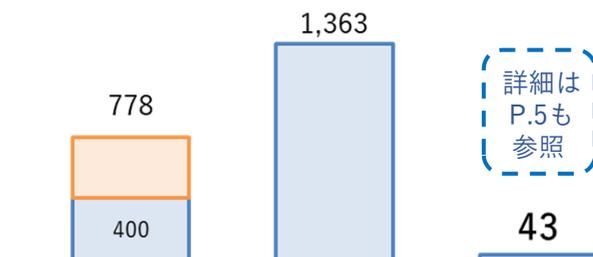
## 【第1四半期累計 評価営業利益の過去3ヵ年推移】

### <会員権セグメント>

(百万円)



### <ホテルレストラン等セグメント>



### <メディカルセグメント>

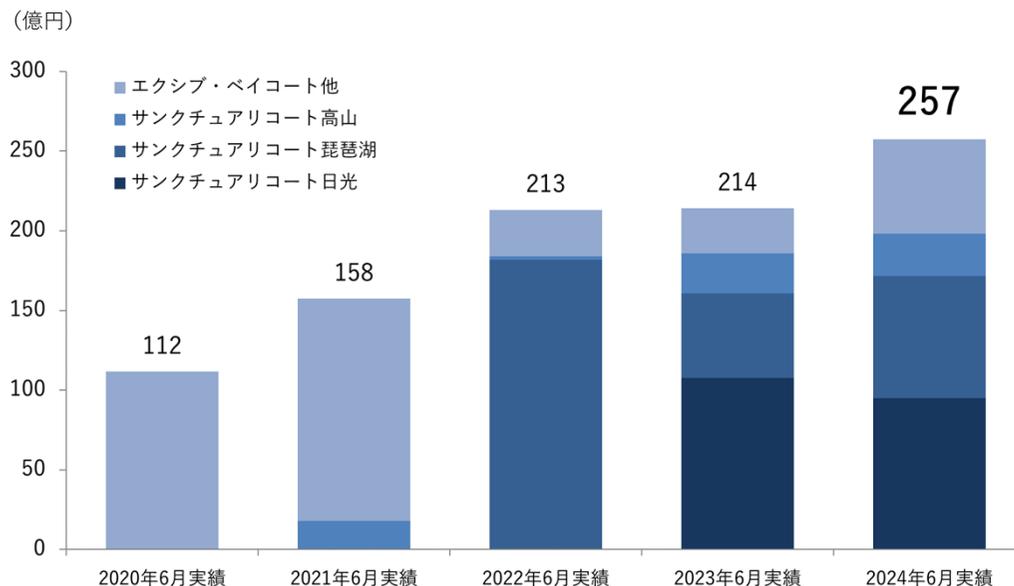
2,282



# 会員権セグメント 契約状況（4-6月）

RESORTTRUST GROUP

## 【商品別ホテル契約高】 当期はエクシブ・ベイコートが増加



## 【サンクチュアリコートシリーズ3物件を販売中】



高山  
2024年3月  
開業  
121室



琵琶湖  
2024年10月  
開業予定  
167室



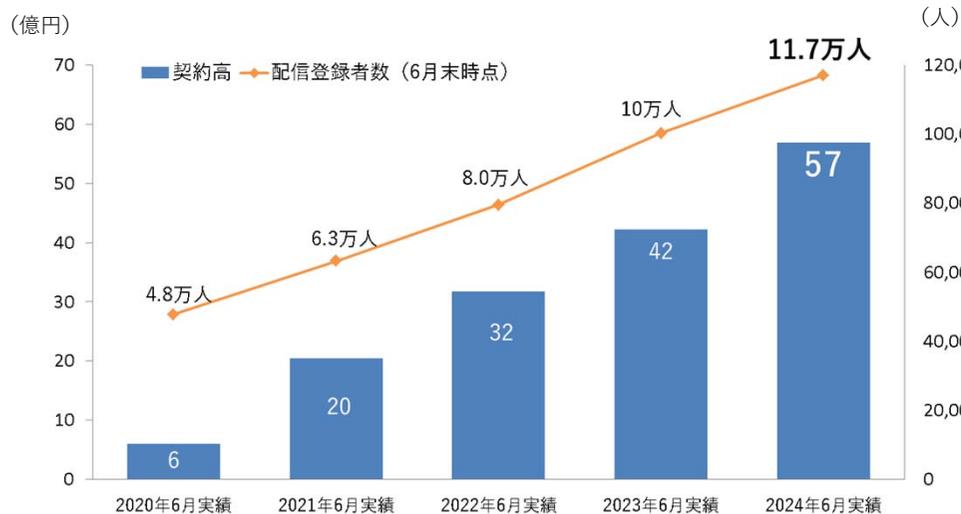
日光  
2026年2月  
開業予定  
162室

<販売率※：高山96% 琵琶湖92% 日光99%>

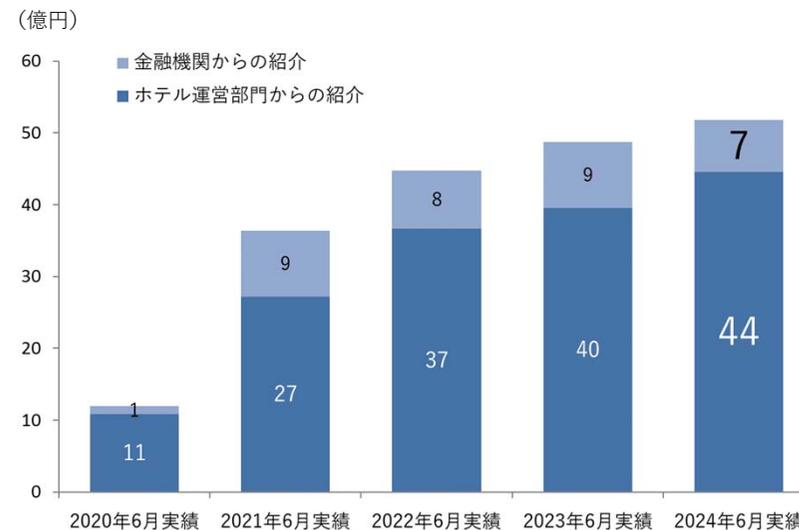
2024.6末ホテル会員権在庫：270億円

※当初回収予定額に対する契約高の進捗率  
(値上げにより販売額が進捗している影響も含む)

## 【デジタル活用契約高(内数)】 每期順調に配信先と契約が増加



## 【金融機関／ホテル紹介経由契約高(内数)】

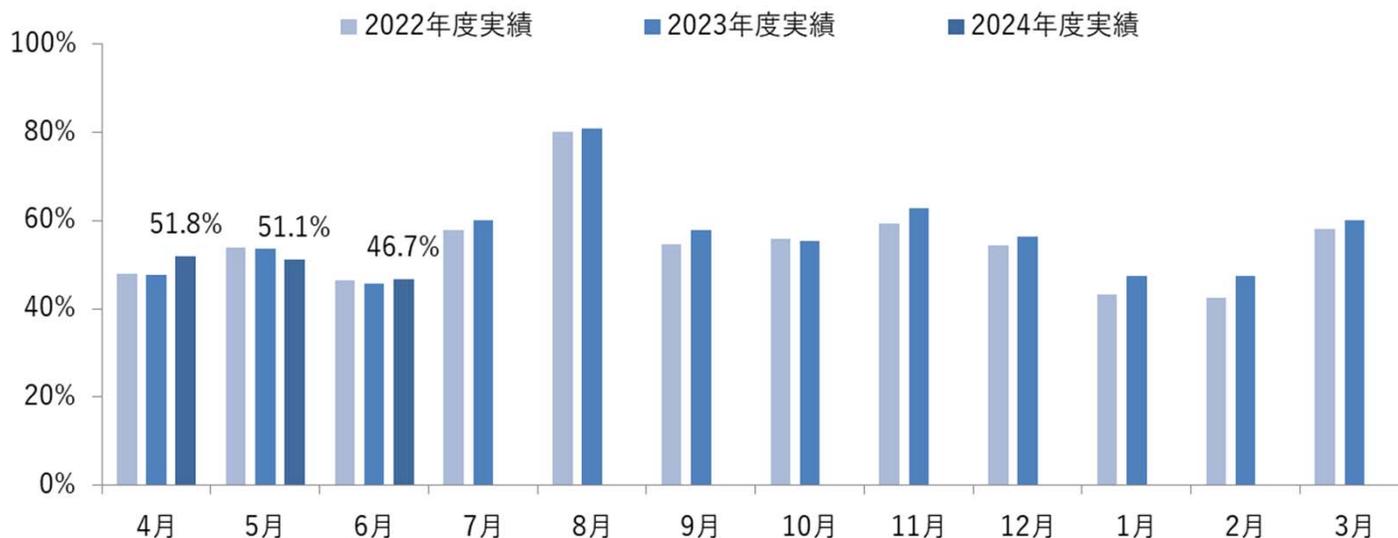


# 会員制ホテル稼働率（月別ブランド別）

RESORTTRUST GROUP

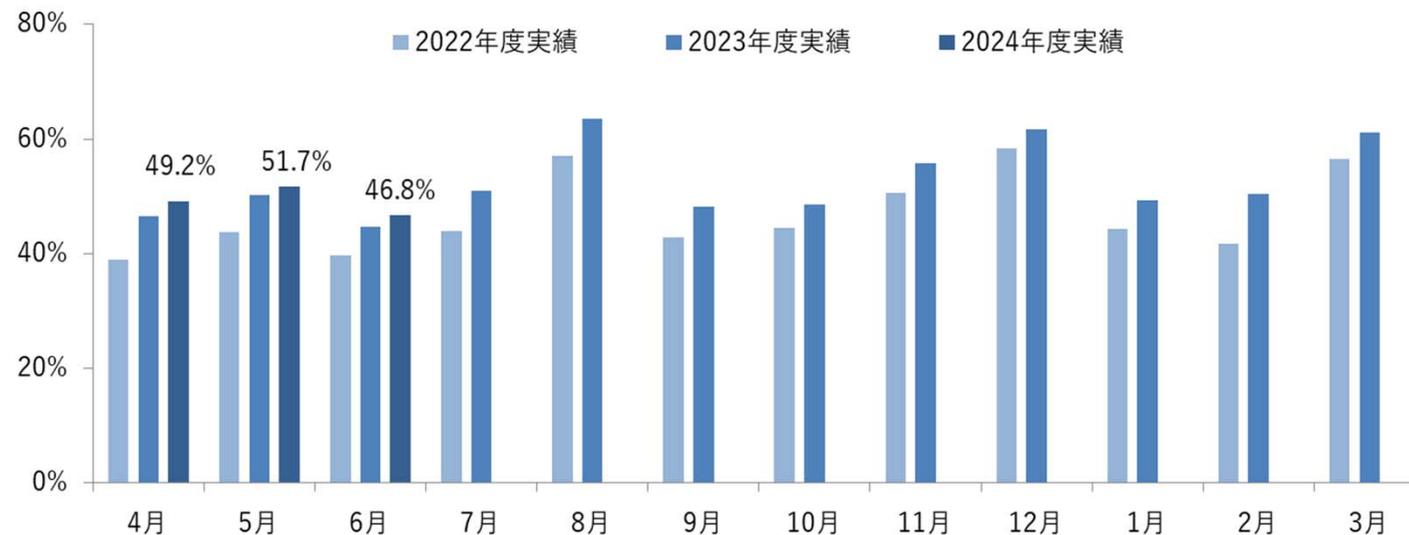
## 【エクシブ：全3,613室】

5月はGWの日並びの影響などからやや稼働が低下したが、他の月は前年を超過して推移



## 【ベイコート：全824室】

都市部の「東京ベイコート倶楽部」を中心に上昇を継続。



## 【カンファリアコート：全121室】

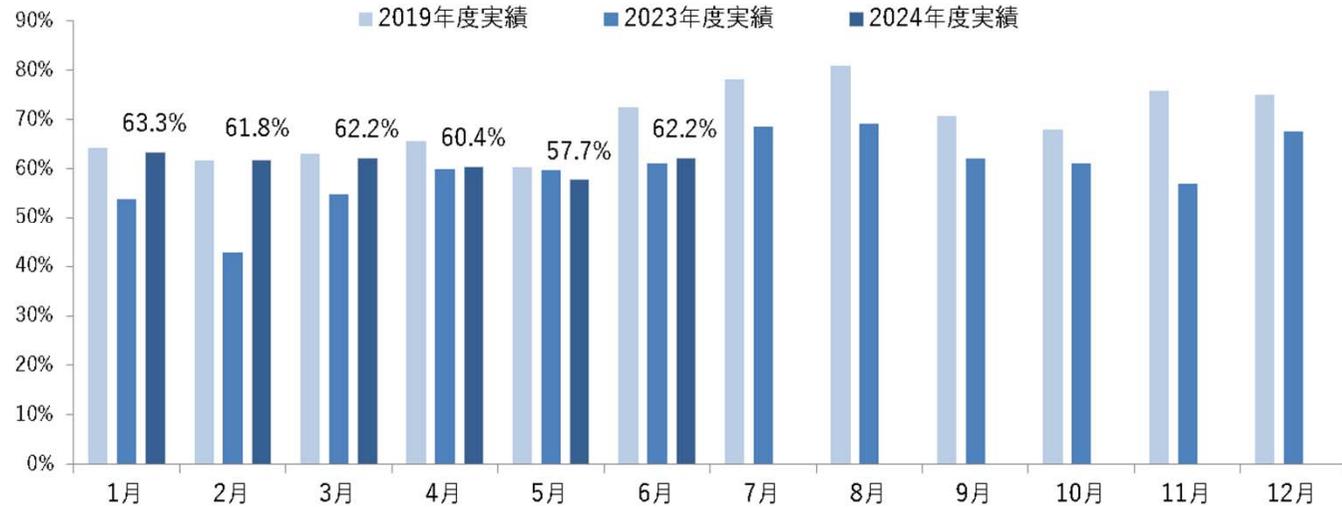
新規開業後、順調に推移 < 4月：76.6%、5月：79.6%、6月：77.0% >

# 一般ラグジュアリーホテル稼働率（カハラブランド）

RESORTTRUST GROUP

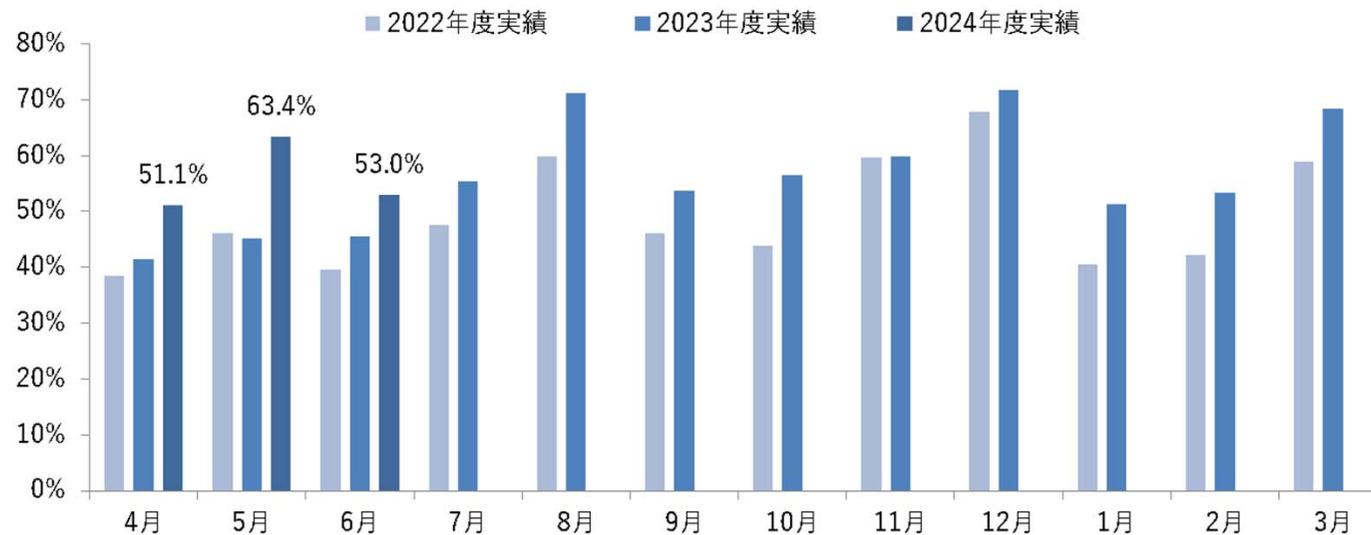
## 【ハワイカハラ：338室】

今年1-3月は一時コロナ前レベルに回復も、4月以降の戻りは限定的。 ※ハワイは3ヵ月遅れで連結



## 【横浜カハラ：146室】

コロナ禍に開業。今期も対前年で稼働率の上昇を継続。



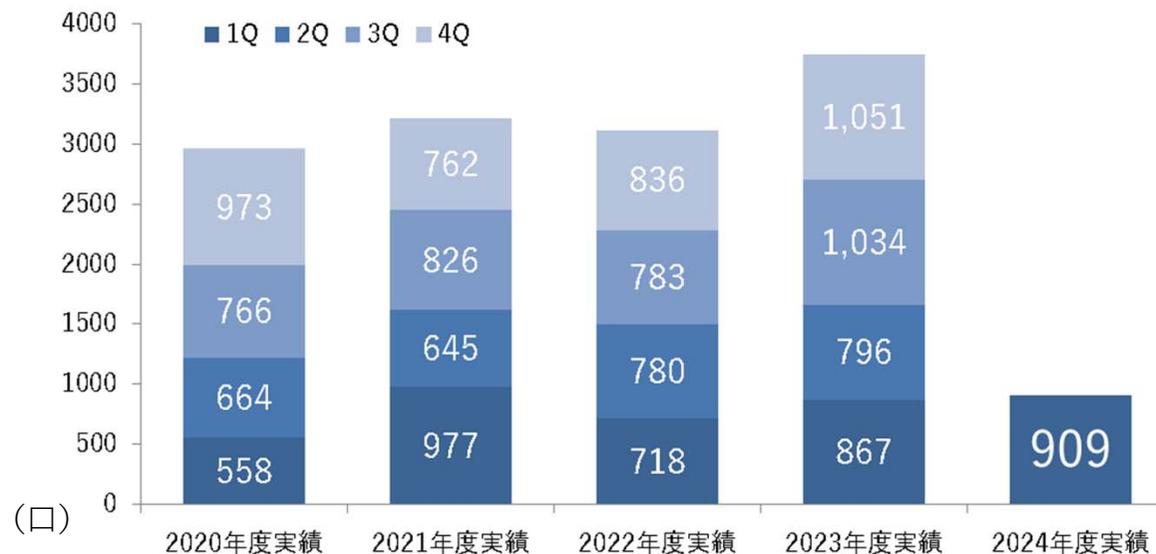
# メディカルセグメントの販売／入居状況

RESORTTRUST GROUP

## 【ハイメディック販売口数】



2020年度より年間3,000口ペースに。今期は1Qとして過去2番目の好調な水準を維持。

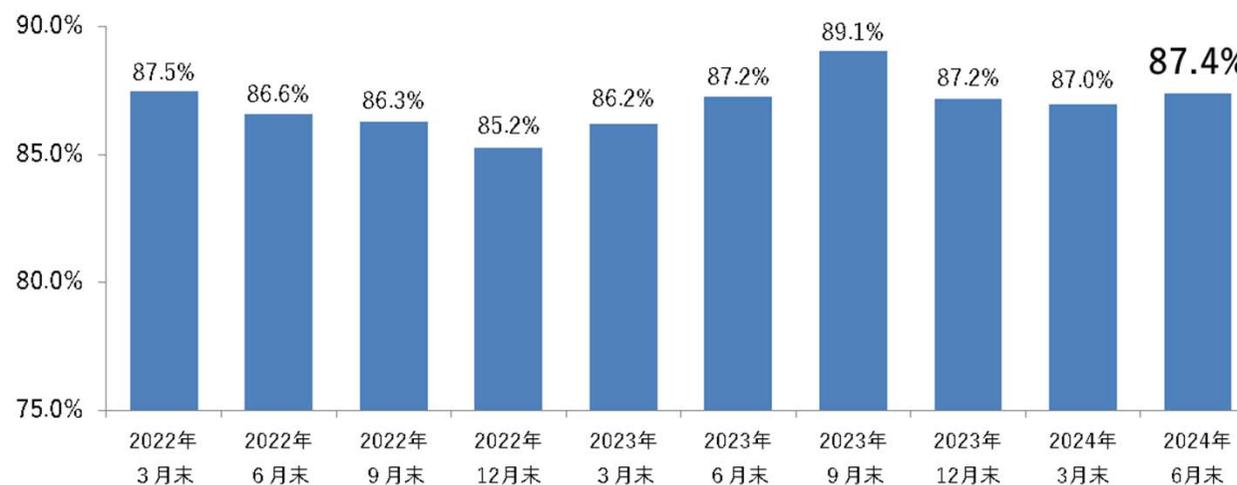


## 【シニアレジデンス入居率】

全2,093室



2022年12月末以降に上昇傾向に転じており、当期1Qは微増にて推移。



# 2025年3月期 計画（期初計画より変更なし）

RESORTTRUST GROUP

## 【連結損益】

	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	差異
売上高	201,803	<b>233,200</b>	+31,397
営業利益	21,119	<b>22,000</b>	+881
経常利益	21,807	<b>22,500</b>	+693
当期純利益	15,892	<b>15,900</b>	+8
評価営業利益	23,899	<b>22,300</b>	△ 1,599

## 【セグメント売上/営業利益】

		2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	差異
会員権	売上	58,701	<b>76,090</b>	+17,389
	営業利益	18,798	<b>17,690</b>	△ 1,108
	評価営業利益	20,179	<b>18,469</b>	△ 1,710
ホテル レストラン	売上	95,492	<b>105,720</b>	+10,228
	営業利益	4,494	<b>4,570</b>	+76
	評価営業利益	4,494	<b>4,570</b>	+76
メディカル	売上	46,899	<b>50,740</b>	+3,841
	営業利益	7,164	<b>7,270</b>	+106
	評価営業利益	9,679	<b>8,126</b>	△ 1,553
その他	売上	710	<b>650</b>	△ 60
	営業利益	767	<b>710</b>	△ 57
本社費 (間接費)	営業利益	△ 10,105	△ <b>8,240</b>	+1,865
	評価営業利益	△ 11,221	△ <b>9,575</b>	+1,646
合計	売上	201,803	<b>233,200</b>	+31,397
	営業利益	21,119	<b>22,000</b>	+881
	評価営業利益	23,899	<b>22,300</b>	△ 1,599

※会員権セグメントの開業準備費用を評価利益上は本社に含む

## 【対前期 算定上の主な差異】

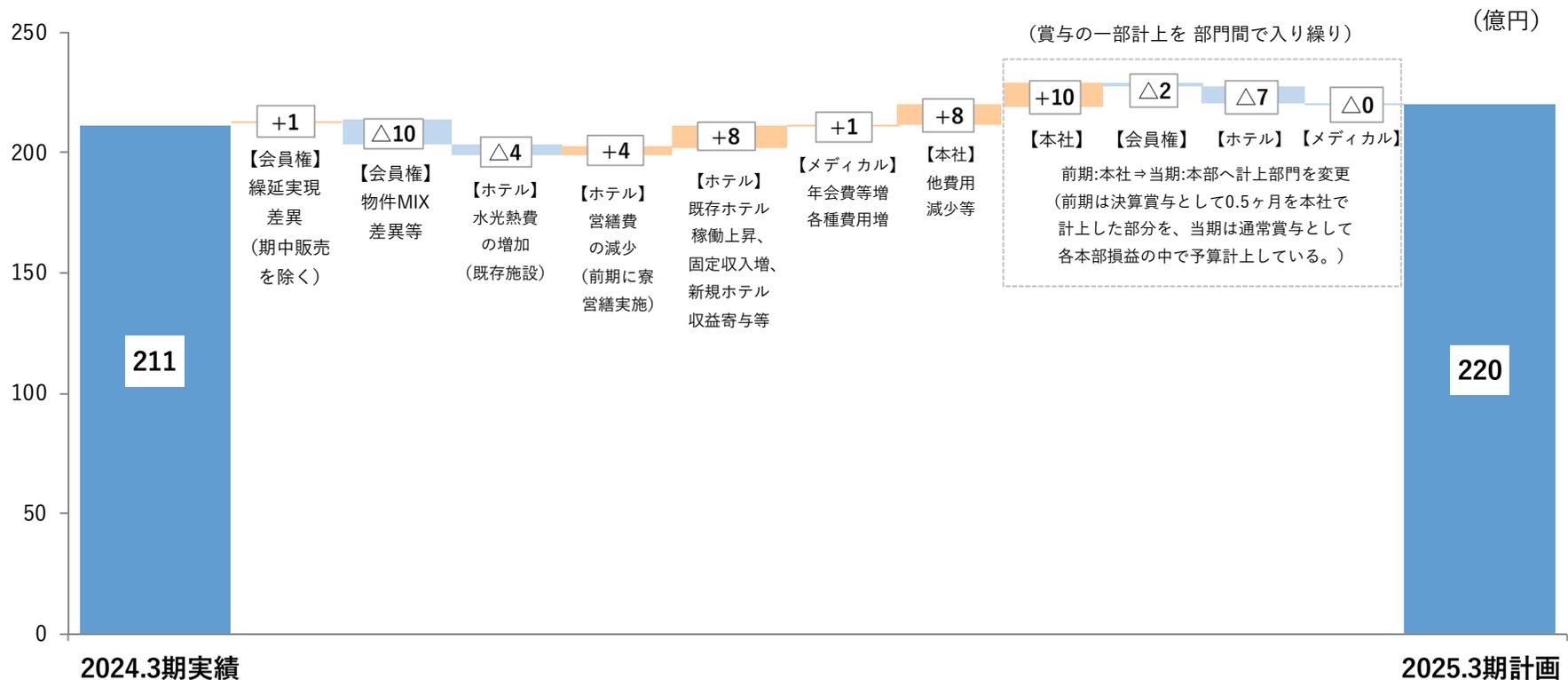
<売上高/営業利益>

- ・ホテル会員権契約高  
2024.3期：838億（新規発売なし）  
2025.3期：839億（新規発売物件2物件を予定）
- ・ハイメディック契約高  
2024.3期：87億 2025.3期：74億
- ・繰延実現（前期までの販売済分の計上）  
2024.3期：繰延実現利益+74億（高山）  
2025.3期：繰延実現利益+75億（琵琶湖）
- ・当期繰延発生（未開業物件販売）  
2024.3期：繰延利益△74億（琵琶湖、日光）  
2025.3期：繰延利益△70億（日光、新規）
- ・開業関連費用  
2024.3期：△11億 2025.3期：△13億
- ・運営営繕費（寮を含む）  
2024.3期：△40億 2025.3期：△36億
- \* 賞与計上部門の差異（セグメント間の負担変更のみ）  
2024.3期：0.5ヵ月分を決算賞与として本社費で計上  
2025.3期：上記0.5ヵ月分を含め各セグメントで計上  
（本社費減+10億、ホテルレストラン△7億 他）
- ・ホテル稼働率  
X I V …2024.3期：55.9% 2025.3期：57.4%  
B C C …2024.3期：52.7% 2025.3期：54.4%

# 2025年3月期計画：営業利益の状況（前年対比）

RESORTTRUST GROUP

## 【2025年3月期通期計画】 営業利益増減（対前期）



- ・ 会員権事業ではホテル契約高は同水準も、販売物件MIXの違い等で若干の利益減を見込む。
- ・ ホテルレストランにおいては、人件費等のコスト上昇要因を稼働上昇や固定収入の増加が上回り、実質で8億規模の増益。本社費は一部コストの計上部門の入り繰り、前期に発生した50周年に関連するコスト等、費用の減少を見込む。

# 中期経営計画 数値目標 (2023.4～2028.3)

RESORTTRUST GROUP

## 【5カ年共通目標】

全体指標	2023.4～2028.3
売上高営業利益率	10%以上
営業利益成長率	年平均10%以上 ※ 2024.3期初計画を起点
ROE	10%以上12%を目指す
還元方針	40%以上を目安に 安定的に還元
連結契約高	2028.3期：10%成長 (対2024.3期初計画比)
ホテル稼働率 (全ブランド合計)	2028.3期：60%以上 (対2024.3期初計画比+5 P)

## 【今後3年間の業績数値目標】

単位：億円	2022年度	2023年度 (初年度)	2024年度 (2年目)	2025年度 (3年目)
指標	前年実績	実績	期初計画 【2024.5.15公表】	当初目標 【2023.5月公表】
売上高	1,698	2,018	2,332	2,300
営業利益 (当初目標)	122	211 (180)	220 (200)	230
営業利益 成長率	+41.2%	+72.1%	+4.2%	-
経常利益	132	218	225	230
当期純利益	169	158	159	150
ROE	15.4%	12.9%	12.0%	12%を 目指す
評価 営業利益	223	238	223	営業利益と 同程度を想定

※2025年度（3年目）の目標値は、今後精査・見直しを検討

# 開発スケジュール

- ホテルはサンクチュアリコート 3 物件の後、2024年度以降も概ね 1 年間に 1～1.5施設のペースで開発を予定。
- ハイメディックは、2024年度に 2 カ所、2026年度に 1 カ所の開業を予定し、42,000口体制を構築。

<販売および開業スケジュール\_2024年 5 月 15 日時点> ※今後変動の可能性あり ● 販売開始 ● 開業・取得 (契約前案件含む)

年度		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	
販売・開業 スケジュール	会員制 リゾート ホテル		● 高山 (121室)		●				
			● 琵琶湖(167室)		●				
			● 日光(162室)			●			
						●		●	
						●		●	●
							●	●	●
開業 スケジュール	会員制 検診クラブ				● 東京				
				● 大阪 (中之島)		● 横浜			

2024年度以降の会員制リゾートホテル開発物件は、現時点で新規に 7 ヶ所以上を検討中であり(未取得の土地含む)、更に他の候補地も継続検討。並行してエクシブの旧物件についても、今中計期間より順次、再投資(リニューアル/建て替え等)に向けた検討を開始。

レジデンス物件は東京都心部に第 1 号の土地のほか、第 2 号、3 号の候補地も並行して選定、スキーム等検討中。今後のスピーディな展開に向け、シニアレジデンス開発に強みを持つパートナー企業とともに展開を予定。

# < 当社四半期業績に関するご参考 >

— 個人投資家の皆様へ —

「会員制リゾート事業」やメディカル事業を行う当社グループの業績は、単年度の四半期毎の業績において、以下の特徴的な動きが生じます。

- 会員権事業においては、開業と同時に、不動産利益を一括で計上する。開業物件がある期、特に開業する四半期の利益が、大きく上昇する。(2023年度4Q(高山)、2024年度3Q(琵琶湖)、2025年度4Q(日光)の開業時に大きく上昇する見込み。)
- リゾート地のホテル稼働は都市部と比較し、季節による繋閑差が生まれやすく、且つ、閑散期には修繕等をかけやすいためコストを多くかける。利益影響：夏場等の繁忙期(2Q~3Q) > 冬場等の閑散期(4Q)

(こちらをご参考下さい) 当社HP「個人投資家のみなさまへ」 <https://www.resorttrust.co.jp/ir/investor/>  
「決算説明資料補足資料(3ヶ月毎の各種データ)」 <https://www.resorttrust.co.jp/ir/library/supplementary/>

# appendix

# 会員基盤と利用者層の拡大 (グループ経済圏の最大化)

RESORTTRUST GROUP

地域	富裕層世帯	23.3会員数	23.3浸透率	20万人時点推計
関東	約65万世帯	約5万人	8%	14%
中部	約23万世帯	約4万人	17%	21%
関西	約24万世帯	約4万人	16%	20%
その他	約37万世帯	約1万人	2%	3%

## グループ経済圏(利用者層)の拡がり

グループ施設  
利用者層

会員の家族親族、  
ゲスト利用者、  
法人従業員の  
福利厚生/健診  
(数百万人規模)

外国人  
(富裕層中心)

国内中小企業  
のオーナー数  
凡そ350万法人  
(法人需要増加)

アプリ会員  
約40万人

LINE導入  
約35万人

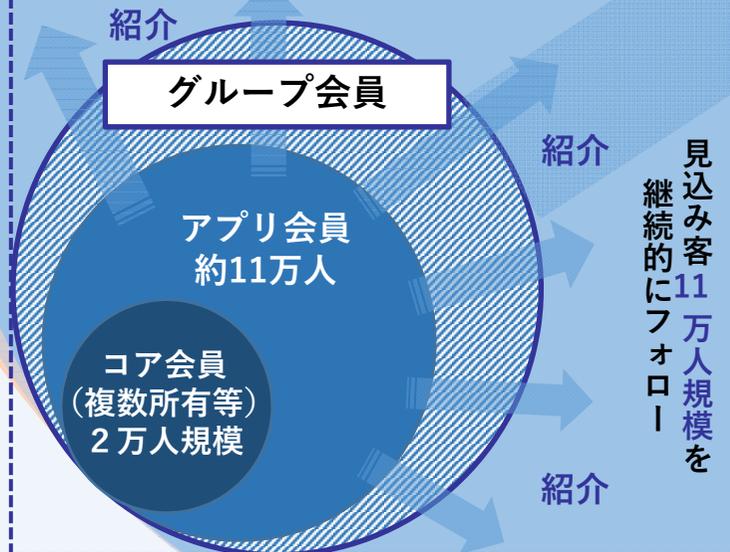
国内富裕層(2021年)149万世帯  
(2019年比12%増)

純金融資産：364兆円

※(株)野村総合研究所 推計データより  
※富裕層の定義:純金融資産1億円以上保有

先10~15年程を視野にした  
グループ会員層の拡がり

(将来)グループ会員  
名寄せ後 20万人規模へ



オーナー層からその周辺の利用者層まで  
デジタルツールを活用し経済圏を活性化

# 提供価値 (サービス領域の拡大/社会価値の創出イメージ)

RESORTTRUST GROUP

「余暇」「健康」に「未来への価値観」を融合させた一歩先の豊かさの提案

より環境に配慮した  
最先端の施設開発と  
最上のホスピタリティ

健康寿命の延伸  
予防医学・未病研究

余暇領域

健康領域

## 顧客との関係性の深化

### 会員制事業としての 新たな価値創造へ

<顧客フォローの最適化>  
究極のテーラーメイドサービス

<会員制プラットフォーム>  
会員同士のネットワークによる活性化

<共感・ロイヤルティ>  
顧客との社会価値の創出

既存施設への  
リノベーション投資、  
地域活性化  
地産地消、雇用創出、  
関係人口増加

ウェルビーイング  
実現に向けた  
ソリューション開発

一事業を通じた社会価値の創出一

# 長期ビジョン（10年後のありたい姿）

RESORTTRUST GROUP

<各部門の10年後の目指す姿より>

お客様との  
一生涯のお付き合い  
に向けた  
商品・サービスの追求

Try! The Excellent  
Hospitality!  
～世界に誇れる  
ホスピタリティ  
グループへ～

**一緒にします、いい人生**  
～より豊かで幸せな時間（とき）を創造します～

『人生100年時代の健康長寿、  
パーソナル・ウェルビーイングへの  
貢献』

プロフェッショナルな  
クリエイティブ人財集団

最も働きやすく  
働きがいのある職場環境

<事業/グループとしてのあり方>

- ・顧客基盤と圧倒的な個々のブランド力を基に、グループ独自のランチェスター戦略を体現
- ・全てのステークホルダーと強い共感・信頼関係で繋がり、社会に豊かさを創造する倶楽部



※各事業の領域でNO.1を実現し、且つ互いにシナジーを最大化する

# SDGs・サステナブル経営への取り組み①

## <現状の取組みスケジュール>

2024年度	1Q (実績)	2Q以降 (予定)
重要課題 (マテリアリティ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域協創PJの推進(蓼科、浜名湖)</li> <li>エンゲージメントサーベイの実施(毎月)</li> <li>社員インタビューの社内報掲載</li> <li>サステナビリティサイトの年度一斉更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄プラスチックのリサイクル企画</li> <li>企業版ふるさと納税を通じた地域協創</li> <li>施設別サステナビリティブランディング</li> <li>サステナビリティフォーラムの継続</li> </ul>
GHG(温室効果ガス)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度までさかのぼったGHG排出量(Scope3)の連結開示</li> <li>再エネ導入効果の検証、省エネ対策継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存施設の省エネチューニング</li> <li>太陽光以外の電力確保に向けての研究</li> </ul>
TCFD/ TNFD	<ul style="list-style-type: none"> <li>TNFD開示に向けた要件整理</li> <li>自然関連情報の開示充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TNFD提言に基づく情報開示(7月)</li> </ul>
社内浸透/ 情報開示	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4回サステナビリティ委員会(7月)</li> <li>2023年度エンゲージメントサーベイ結果報告会の実施</li> <li>ラインワークスの週次配信による取り組みの社内周知とグループのつながり強化</li> <li>サステナビリティサイトでのオウンドメディア発信(サステナブル・ストーリー)</li> </ul>	

※サステナビリティ委員会の議題・参加者はサステナビリティサイトに掲載しております  
<https://www.resorttrust.co.jp/sustainability/management/>



ホテルレストランで出た食品残渣を堆肥化し、それを用いた農業や畜産に挑戦中。画像はホテル周辺の生産者の協力の下、実際にそのリサイクル堆肥を用いて育てたスイートコーン。ホテルレストランでの提供や、お客様への販売を行なう。

## <参考：2022年度、2023年度>

	2022年度実績	2023年度実績
重要課題 (マテリアリティ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回、第2回サステナビリティ委員会開催(7月、1月)</li> <li>マテリアリティ決定</li> <li>マテリアリティ目標/指標項目検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>マテリアリティ目標決定</li> <li>施設・地域との連携PJ推進</li> <li>第3回サステナビリティ委員会(10月)</li> </ul>
GHG(温室効果ガス) /自然資本	<ul style="list-style-type: none"> <li>TCFD賛同表明、TCFD提言に基づく開示</li> <li>GHG排出量削減目標/計画決定、実行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度GHG排出量算出</li> <li>開業済み全拠点(36か所)において、太陽光パネルの設置完了</li> <li>TNFDフォーラムへの参画、「TNFD Adopter」に登録</li> </ul>
社内浸透/ 情報開示	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナビリティサイトのリニューアルオープン</li> <li>eラーニングの開始</li> <li>スタッフからの価値創造アイデア募集企画の実施、選考</li> <li>サステナビリティフォーラムの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナビリティフォーラムの実施(毎月)</li> <li>グループ全スタッフ対象の価値創造アイデア募集プロジェクトの推進</li> <li>社内へのラインワークス配信とホームページでのオウンドメディア発信</li> <li>eラーニングの実施</li> </ul>

# SDGs・サステナブル経営への取り組み②

RESORTTRUST GROUP

## < GHG削減目標の決定、TCFD提言に基づく開示を公表 >

■GHG排出量削減目標	2030年	2050年
Scope1, 2 (連結) の削減	40%削減 <2019年比>	カーボンニュートラル 達成

- ・国内全てのリゾートホテルへ太陽光パネルを設置、ホテル26施設へEV充電器を拡充
- ・既存設備の最適化、再生可能エネルギーの導入
- ・新たな蓄電技術や水素発電等、次世代型エネルギーの研究等、順次取り組んでいきます

TCFDが提言する情報開示フレームワーク（気候変動のリスク・機会に関するガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標）に沿った開示は、以下のリンクを参照ください。

[https://www.resorttrust.co.jp/sustainability/environment/carbon\\_neutral/](https://www.resorttrust.co.jp/sustainability/environment/carbon_neutral/)

## < GHG排出量の算定結果（2019-2023年度） >

### Scope1,2(連結) (単位:tCO<sub>2</sub>)

排出の内容	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
各施設での燃料 (ガソリン・重油 等)および電力の 使用等による排出	142,706	131,270	136,522	134,245	<b>139,338</b>

### Scope3 (連結)

排出の内容	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
仕入や設備投資など 事業の上流・下 流における排出	—	—	—	234,454	<b>272,993</b>

## < マテリアリティ項目 >

区分	カテゴリ	リゾートトラスト グループのテーマ	マテリアリティ	KPI目標	関連ゴール
E	地球	環境負荷の低減 (自然と共に生きつづける)	①GHG排出量の削減	○GHG(Scope1,2)の削減量(連結) 2030年：2019年度比40%減 2050年：カーボンニュートラル	   
			②廃プラスチック・食品ロスの低減	○特定12品目の提供量削減量(単体) 2027年度：2019年度比40%減	
			③生物多様性の保全	○食品廃棄物の再生利用等実施率(単体) 2027年度：65.6%	
S	繁栄	「一緒にします、いい人生」の 実現  グループ独自の付加価値の協創	④一人ひとりの人生に寄り添う サービスの提供	○会員数(連結) 2027年度：22.5万名	    
			⑤サービスの品質・安全性・ 革新性の追求		
			⑥地域活性化への貢献		
	人	スタッフの「いい人生」	⑦ダイバーシティ&インクルージョン の推進	○女性管理職比率(連結) 2027年度：25%	   
			⑧全スタッフの「しあわせ」の追求	○男女間賃金格差(連結) 2027年度：75%	
			⑨能力・キャリアの開発	○男性育児休業取得率(連結) 2027年度：85%	
G	ガバナンス	ガバナンス強化	⑩透明性の高い公正な事業運営	ガバナンス・リスク・コンプライアンス体制を強化し、投資家との建設的な対話を通じて、企業価値向上に努めてまいります。	
			⑪非財務情報の開示とステークホルダーとの対話促進		

※世界経済フォーラム（WEF）が2020年9月に公表したESG報告ガイドライン『ステークホルダー資本主義指標』に基づきカテゴリを整理しています。

# 評価売上高／評価営業利益の算定（決算ハイライト）

RESORTTRUST GROUP

## 【第1四半期連結業績】／【1Q営業利益、評価営業利益の過去3ヵ年推移】 評価加減算の内訳

（百万円）

< 評価加減算内訳 >	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績
繰延（不動産売上）	+ 8,595	+8,606	+ 7,406
繰延実現（不動産売上）	-	-	-
収益認識基準の変更	+328	+578	+ 470
<b>売上高評価加味</b>	<b>+ 8,923</b>	<b>+ 9,184</b>	<b>+ 7,876</b>
繰延（不動産利益）	+ 2,133	+2,245	+ 1,947
繰延実現（不動産利益）	-	-	-
収益認識基準の変更	+328	+578	+ 470
<b>営業利益評価加味</b>	<b>+ 2,461</b>	<b>+2,824</b>	<b>+ 2,418</b>

※ P.2において、会計数値に以下の要素を加味することで、評価数値を算出しております。

※ 収益認識基準変更影響の内、ポイント会計部分は影響が軽微なため、算定に含みません。

# セグメント別実績詳細（4-6月）

RESORTTRUST GROUP

## 【会計ベースセグメント業績】

（百万円）

		2020年6月 実績	2021年6月 実績	2022年6月 前々年実績	2023年6月 前年実績	2024年6月 実績	前年比
会員権	売上高	5,694	11,779	9,112	9,232	14,182	+53.6%
	営業利益	2,203	2,784	2,967	2,399	<b>4,388</b>	+82.9%
ホテル レストラン	売上高	8,614	15,131	20,086	22,224	24,231	+9.0%
	営業利益	△ 2,347	△ 925	400	1,363	<b>43</b>	△96.8%
メディカル	売上高	8,942	10,233	10,846	11,362	12,360	+8.8%
	営業利益	1,027	1,034	1,446	1,523	<b>1,811</b>	+19.0%
その他	売上高	164	174	180	174	174	+0.2%
	営業利益	72	74	121	101	<b>115</b>	+14.0%
本社	営業利益	△ 1,840	△ 2,046	△ 2,425	△ 2,137	△ <b>2,302</b>	△165百万円
合計	売上高	23,416	37,319	40,224	42,994	<b>50,949</b>	+18.5%
	営業利益	△ 884	920	2,510	3,250	<b>4,057</b>	+24.8%

# 物件別契約高詳細（4 - 6月）

RESORTTRUST GROUP

## 【物件別契約高内訳】

(億円)

	2020年6月 実績	2021年6月 実績	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績	※ 2024年6月 販売進捗率 (累計契約高)	2025年3月期 通期計画
新規物件 ①	—	—	—	—	—	—	359
新規物件 ②	—	—	—	—	—	—	93
サンクチュアリコート日光	—	—	—	108	95	99.3%	98
サンクチュアリコート琵琶湖	—	—	182	53	77	92.4%	145
サンクチュアリコート高山	—	18	2	25	27	95.7%	55
ザ・カハラクラブハワイ	2	2	2	2	—	—	—
横浜ベイコート	81	11	1	5	9	—	7
ラグーナベイコート	6	10	1	6	8	—	12
XIV 六甲 SV	△ 5	35	6	—	1	—	—
芦屋ベイコート	31	6	4	4	6	—	12
XIV 湯河原離宮	△ 9	33	3	3	7	—	—
他既存ホテル	6	44	12	8	30	—	59
会員権セグメント計	112	157	213	214	257	—	839
ゴルフ	1	3	2	2	2	—	4
ハイメディック	13	22	17	20	21	—	74
合計	126	183	232	237	281	—	917

※ 当初総契約高（回収予定額）に対する進捗率

# 物件別売上高詳細（4 - 6月）

RESORTTRUST GROUP

## 【会員権セグメント売上 物件別内訳】

(億円)

		2020年6月 実績	2021年6月 実績	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績	2025年3月期 通期計画
新	規 物 件 ①	-	-	-	-	-	303
新	規 物 件 ②	-	-	-	-	-	79
	サンクチュアリコート日光	-	-	-	92	80	82
	サンクチュアリコート琵琶湖	-	-	155	45	64	121
	サンクチュアリコート高山	-	15	2	21	23	45
	ザ・カハラクラブハワイ	1	1	1	1	-	-
	横浜ベイコート	70	9	1	4	7	6
	ラグーナベイコート	5	9	1	5	7	11
	XIV 六 甲 SV	△ 5	31	5	0	1	-
	芦屋ベイコート	28	5	3	3	5	11
	XIV 湯 河 原 離 宮	△ 9	25	3	3	6	-
	他 既 存 ホ テ ル	1	31	8	5	21	44
	ホ テ ル 会 員 権 計	91	126	179	180	214	703
繰延売上	横浜ベイコート	△ 36	-	-	-	-	-
	日 光	-	-	-	△ 55	△ 41	△ 43
	琵 琶 湖	-	-	△ 86	△ 21	△ 33	+301
	高 山	-	△ 8	△ 0	△ 10	-	-
	新 規 物 件 ①	-	-	-	-	-	△ 161
	新 規 物 件 ②	-	-	-	-	-	△ 42
全	ホ テ ル 計	55	118	93	94	140	759
そ	の 他	2	△ 0	△ 2	△ 2	2	2
	会 員 権 セ グ メ ン ト 計	57	118	91	92	142	761

# ホテルレストラン／メディカルセグメント 売上高詳細 (4-6月)

RESORTTRUST GROUP

## 【ホテルレストラン等セグメント売上内訳】

(百万円)

	2020年6月 実績	2021年6月 実績	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績	2025年3月 通期計画
エクスンプ	2,086	5,976	8,079	8,793	8,831	40,313
サンメンバーズ	103	244	474	628	704	3,303
トラスティ	284	484	331	554	622	2,446
ベイコート	703	1,723	2,418	2,825	2,917	12,910
サンクチュアリコート	-	-	-	-	629	4,122
年会費収入	2,126	2,357	2,392	2,396	2,505	10,840
保証金償却収入	878	1,012	1,014	971	970	3,951
ザ・カハラ・ホテル&リゾート	1,748	1,229	2,578	3,083	3,944	16,778
その他	683	2,104	2,797	2,971	3,105	11,053
合計	8,614	15,131	20,086	22,224	24,231	105,720

## 【メディカルセグメント売上内訳】

(百万円)

	2020年6月 実績	2021年6月 実績	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績	2025年3月 通期計画
ハイメディック事業	4,159	4,491	4,923	5,347	5,979	24,085
MS法人事業(一般健診)	993	1,749	1,832	1,916	2,202	8,709
プロダクトセールス事業	530	639	626	616	653	2,915
シニアライフ/先端医療	3,239	3,360	3,440	3,441	3,661	15,170
その他(消去含む)	19	△8	23	42	△135	△141
合計	8,942	10,233	10,846	11,362	12,360	50,740

前回資料より区分名称を一部見直しております(現状の組織区分に沿っての名称変更であり数値の影響はございません)

# 施設運営状況詳細（4 - 6月）

RESORTTRUST GROUP

## 【ホテル運営状況】

宿泊者数

(千人)

	2020年6月 実績	2021年6月 実績	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績	2025年3月期 通期計画
エクシブ	93	284	413	415	427	2,048
サンメンバーズ	5	18	40	48	55	251
トラスティ	26	54	43	56	59	239
ベイコート	22	56	76	86	89	405
サンクチュアリコート	-	-	-	-	22	146

稼働率

(%)

	2020年6月 実績	2021年6月 実績	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績	2025年3月期 通期計画
エクシブ	11.3	34.3	48.8	48.4	49.3	57.4
サンメンバーズ	4.5	21.3	45.9	55.3	59.4	67.2
トラスティ	11.6	26.5	70.4	83.2	87.1	86.4
ベイコート	15.1	30.6	40.9	47.3	49.3	54.4
サンクチュアリコート	-	-	-	-	77.7	74.5

消費単価

(円)

	2020年6月 実績	2021年6月 実績	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績	2025年3月期 通期計画
エクシブ	22,245	21,010	19,543	20,471	20,702	19,680
サンメンバーズ	8,145	9,656	10,105	11,538	11,726	13,141
トラスティ	10,696	8,964	7,734	9,924	10,539	10,241
ベイコート	31,286	33,041	33,375	34,289	34,218	33,321
サンクチュアリコート	-	-	-	-	28,286	28,311

※2023年6月実績の消費単価は、当期の計算方法に合わせて再計算しております。

## 【シニアレジデンス運営状況】

	2020年6月 実績	2021年6月 実績	2022年6月 実績	2023年6月 実績	2024年6月 実績	2025年3月期 通期計画
全施設平均入居率 (%)	86.7	87.2	86.6	87.2	87.4	88.2
居室数合計 (室)	2,100	2,097	2,094	2,094	2,092	2,093

# 貸借対照表（2024年6月末）

RESORTTRUST GROUP

（百万円）

	2024年3月期末 （前期）	2024年6月期末 （当期）	増減		2024年3月期末 （前期）	2024年6月期末 （当期）	増減
<b>流動資産</b>	<b>200,525</b>	<b>206,221</b>	<b>+5,696</b>	<b>流動負債</b>	<b>177,946</b>	<b>188,058</b>	<b>+10,111</b>
現金及び預金	31,752	29,604	△2,147	仕入債務	1,787	1,509	△278
売上債権	11,314	10,789	△525	借入金	10,405	14,226	+3,820
営業貸付金・割賦売掛金	100,586	101,909	+1,322	未払金	34,470	28,237	△6,233
有価証券	8,758	6,795	△1,963	前受金	110,219	122,127	+11,907
商品・原材料・貯蔵品	2,945	3,100	+155	前受収益	15,116	16,310	+1,194
販売用不動産	5,388	5,799	+410	その他	5,946	5,647	△299
仕掛販売用不動産	30,110	35,718	+5,607	<b>固定負債</b>	<b>155,011</b>	<b>156,812</b>	<b>+1,800</b>
その他	9,668	12,504	+2,836	長期借入金	2,172	2,042	△129
<b>固定資産</b>	<b>268,040</b>	<b>273,481</b>	<b>+5,441</b>	長期預り保証金	123,157	123,265	+107
有形固定資産	192,389	196,945	+4,555	長期リース債務	20,535	21,903	+1,367
無形固定資産	6,146	6,374	+228	その他	9,145	9,601	+455
繰延税金資産	18,594	18,758	+163	<b>負債合計</b>	<b>332,957</b>	<b>344,870</b>	<b>+11,912</b>
その他	50,909	51,403	+493	<b>純資産合計</b>	<b>135,607</b>	<b>134,832</b>	<b>△775</b>
				株主資本	125,394	124,845	△549
				自己株式	△5,483	△5,475	+7
				その他の包括利益累計額	9,460	9,314	△145
				非支配株主持分	6,235	6,148	△87
<b>資産合計</b>	<b>468,565</b>	<b>479,703</b>	<b>+11,137</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>468,565</b>	<b>479,703</b>	<b>+11,137</b>

# 繰延収益詳細 (期末ベース)

※販売した期に不動産収益が計上されることを前提とし(±0)、繰延べられる期には△、実現する期には+として表記

(単位:億円)

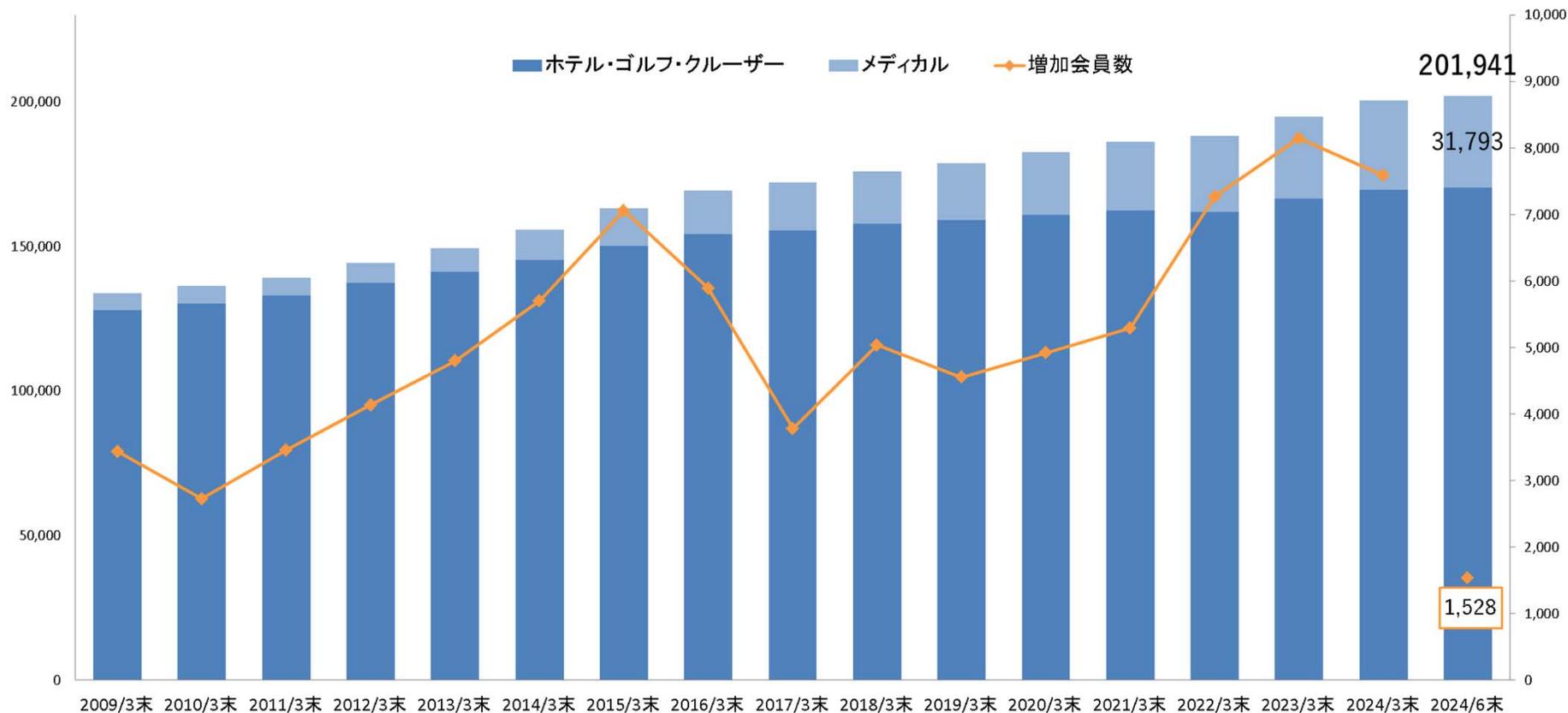
事業年度	2016年3月期実績		2017年3月期実績		2018年3月期実績		2019年3月期実績		2020年3月期実績		2021年3月期実績		2022年3月期実績		2023年3月期実績		2024年3月期実績							
未開業(繰延)物件契約高	六甲SV	45億	ラグーナ	200億	横浜	72億																		
	芦屋	301億	六甲SV	32億	ラグーナ	208億	横浜	130億	横浜	227億	横浜開業													
	湯河原	123億	芦屋	125億	六甲SV	25億							琵琶湖	16億	日光	272億	日光	405億						
													高山	390億	琵琶湖	421億	琵琶湖	234億						
															高山	26億	高山開業							
繰延(不動産売上・利益)	売上	利益	売上	利益	売上	利益																		
サンクチュアリコート																								
日光																	△ 139	△ 34	△ 192	△ 48				
サンクチュアリコート																								
琵琶湖														△ 7	△ 2	△ 193	△ 48	△ 100	△ 26					
サンクチュアリコート																								
高山														△ 180	△ 71	△ 5	△ 2							
																				+ 185 ※ + 74				
横浜ベイコート																								
							△ 35	△ 12	△ 62	△ 21	△ 105	△ 34												
																				+ 201 ※ + 71				
ラグーナ																								
ベイコート							△ 102	△ 32	△ 104	△ 34														
																				+ 205 ※ + 71				
XIV六甲SV																								
							△ 21	△ 4	△ 14	△ 3	△ 11	△ 2												
																				+ 47 ※ + 11				
芦屋ベイコート																								
							△ 153	△ 54	△ 61	△ 22														
																				+ 212 ※ + 82				
XIV湯河原離宮																								
							△ 55	△ 17																
																				+ 102 ※ + 34				
XIV鳥羽別邸																								
※2014年3月より販売開始																								
																				+ 98 ※ + 30				
影響額合計(単年度)							△ 132	△ 46	△ 75	△ 23	+ 62	+ 34	+ 189	+ 61	△ 105	△ 34	+ 201	+ 71	△ 188	△ 73	△ 337	△ 83	△ 107	△ 0

※繰延実現利益(+)の実績値には、予定原価と確定原価の差異を含む

# 会員数の長期推移

【グループ会員数の推移】

(口数)



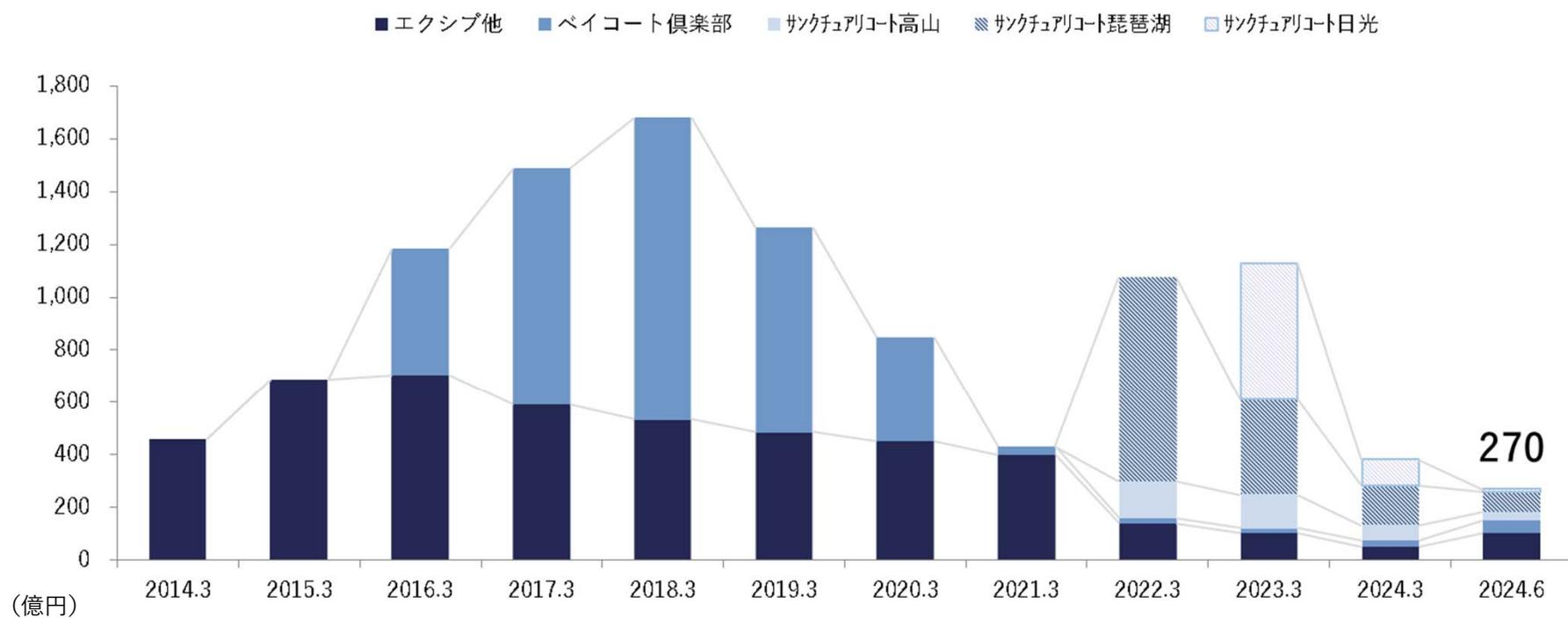
	サンクチュアリコート	ベイコート	エクシブ	サンメンバーズ	ゴルフ	メディカル	クルーザー	カハラ	合計	
2024年3月末	12,933	23,772	79,702	21,179	30,044	31,149	419	1,331	200,529	
<b>2024年6月末</b>	<b>14,276</b>	<b>23,674</b>	<b>79,345</b>	<b>20,745</b>	<b>30,360</b>	<b>31,793</b>	<b>421</b>	<b>1,327</b>	<b>201,941</b>	XIV+BCC+HM +カハラ+SAC 合計
2024年6月期増減	+1,343	△98	△357	△434	+316	+644	+2	△4	+1,412	<b>+1,528</b>
2023年6月期増減	+1,404	+25	△6	△403	+20	+594	+7	+76	+1,717	<b>+2,093</b>

<会員権を複数所有されているケースについては、それぞれの会員権で1名ずつカウントしております>

# 販売在庫（契約高ベース）の長期推移

RESORTTRUST GROUP

## 【ホテル会員権の契約高在庫】



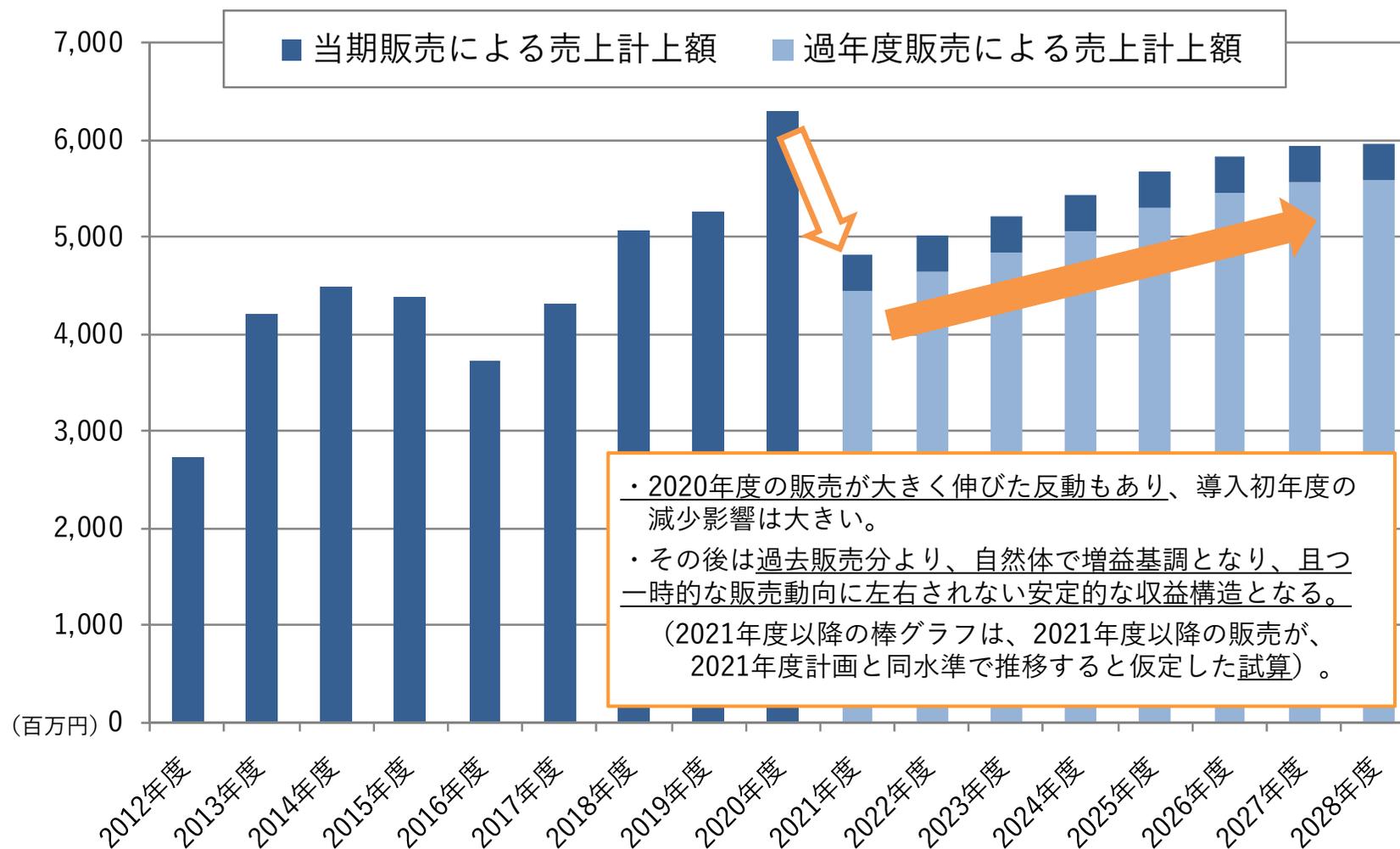
※カハラクラブ ハワイを含まず

# 2021年度以降 収益認識基準の変更に伴う影響

RESORTTRUST GROUP

<収益認識基準変更に伴う影響 (ハイメディック登録料) >

- ・2021年度以降、販売に伴う登録料を一定期間（8年間）で償却して売上計上する（残りは前受金でBS計上）。
- ⇒当該年度の登録料計上額は、販売時より一定期間（8年間）を遡った過去販売分を加味して再計算される。（結果として2021年度の登録料計上額は、2012年度以降の各単年度販売額の平均値に近い値になる。）



ご一緒に、いい人生



※ 本資料には、将来の業績に係る記述が含まれています。  
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包する物です。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。

リゾートトラスト株式会社 サステナビリティ推進部

<https://www.resorttrust.co.jp/ir/index.html>